

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 26 日

札幌市立 新川中央小学校

1 今年度の重点目標

「あいがあふれる学校の創造」

2 本年度の経営方針

○義務教育9年間を見通した学ぶ力の育成 ○豊かな心の育成 ○健やかな身体の育成
○安心安全を第一にした学校体制 ○開かれた学校への取組 ○働きやすい職場環境の整備

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	評価の内容と改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	あいがあふれる学校の創造	知・徳・体の調和のとれた育ち 子ども理解と発達の段階に応じた支援 「ふるさと新川」を心に持つ 開かれた学校を目指す	A	○教職員全体で共通の認識をもち、チームワークよく教育活動を行うことができた。 今年度の反省を生かし、次年度に向けた必要な改善を進めていく。		
学校関係者評価委員会による意見		概ねよし。 今後も引き続き先生方に子どもたちの指導をお願いしたい。				
人間尊重の教育	・子どもたち一人一人が自分が大切にされていると感じられる学校づくり	・互いのよさや可能性を發揮できる取組ができたか。 ・互いのよさや可能性を認め合える仲間づくりを進められたか。 ・安心して過ごすことができる学校空間づくりができたか。	A	○研修等を通して教職員自らの意識、相互承認の感度を高めていくことができた。 ○さっぼろっ子「学びのスズメ」が示す、促す、認める、支える関わりを実践することができた。 ○人や社会、自然、環境とのつながりを感じられる多様な体験活動を行うことができた。		
「学ぶ力」の育成	・「あい」をもとめる子の育成～子ども一人一人が学びの主人公となる授業構築	・「分かる」「できる」体験の実現に向けて研究を推進しているか。 ・子ども一人一人の特性に合わせた指導を効果的に行うことができたか。 ・専科指導を充実し、児童が自ら学ぶ力の育成をすることができたか。	A	○校内研究を計画・実施し、校外の先生から御助言・御指導をいただき、よりよい授業について研究をすることができた。また、校内の先生が講師を担当して研修を行うことができた。 ○学びのサポーターや助成アシスタント、相談支援パートナー、学生ボランティアを活用し、個別支援を必要としている子どもの思いに寄り添った指導を継続することができた。 ○高学年を中心に、理科や英語、家庭科の専科指導を行った。専門的な知識をもつ教員が学習を進めることで、学力向上を目指してきた。また、複数の教員で子どもの様子を見ることで、きめ細やかな指導につなげてきた。今後も、学力の底上げのために、指導の充実を図っていく。また、専科指導を実施することで、担任の先生が授業の準備をする時間を生み出すことができた。	A	A
「豊かな心」の育成	・決まりやけじめを大切に、目標に向かって、ともに高め合い、たっせする喜びや仲間との成長を実感する子	・ソーシャルスキルの定着を図るために、挨拶・言葉遣いを学ぶ場を設定できているか。 ・自ら企画・運営したり、活動に参加・協力したりすることにより、自主性や協調性が養われているか。 ・異学年が交流し合える場となり、意欲的に活動しているか。	A	○【3A～あいさつ、あるく、ありがとう】をスローガンにして、子どもたちの生活・言葉遣い・他者との関り方の改善に努めている。 ○運動会や学習発表会などは、日常の学習の成果を発表する場であるという意識を教職員で改めて共有し、最適な方法を吟味して行っていく。 ○委員会の活動内容を見直し、よりよい学校を目指し、今年度の反省をもとに、次年度は、課題を改善できるような目標を掲げた活動になるようにする。 ○「たてわり活動」の取組では、各学年が企画・進行を担当し、それぞれの学年の頑張りや認め合い、支え合う姿が見られ、より積極的に参加する様子が見られた。	A	A

「健やかな体」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい運動習慣・生活習慣・食習慣を身に付け、生き生きと健康的に過ごすことができる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体に関心を持ち、自ら健康を守ろうとする態度が見られる。 ・心身の健全な発達と体力の向上を図り、安全な行動や規律ある集団行動ができる場となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○体力向上の取組として、「マット週間」「とび箱週間」を計画し、休み時間に自主的に練習する期間を設けたことで、意欲も技能も向上させることができた。 ○指導にあたっては、子どもがその価値を意識しながら意欲的に取り組めるよう、意味や意図を考える場を与えることで、自律心を育てていく。 ○養護教諭による保健指導を充実させ、全学年の学級で授業を行い、自らの健康や体の発達について目を向けさせることができた。 ○和光小の栄養教諭と連絡・連携を進め、安全な給食を提供するとともに、食育に関しても、継続して行っている。 	A	A
いじめ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重する態度を育む。 ・いじめ問題について考える学習活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがお互いの良さを認め合える関係づくりができています。 ・近くに相談できる大人がいると感じられるような関係が構築されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の学校生活において、子どもたちが自己有用感を感じられるような関わりを積極的に行うことができた。 ○道徳の時間の学習を生かして、命の大切さや仲間とのつながりの大切さ、優しい心について考えることができた。 	/	/
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携を強める ・幼保小の連携を強める 	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を通じた子どもの学びのつながりを意識した取組ができたか。 ・子ども理解、生徒指導の連続性を意識した取組ができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が札教研で互いの授業を見合うことで、指導の連続性について考えることができた。 ○子どもたちが中学校の授業見学や幼稚園・保育園児との交流を通して、自分たちの成長を実感したり、これからの自分を想像したりする機会にすることができた。 	/	/
学校関係者評価委員会による意見		<p>サポーター、アシスタントの支援がありがたい。 専科指導についてどのように行われているのかを見てみたい。 縦割り活動は他学年に関心をもち、交流できる素晴らしい活動。 保健の指導を小学生のうちからしっかりと受けられることは貴重である。</p>				
学校独自に設定する分野	信託にこたえる学校への取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページなどでの児童の様子を伝えるという部分で、写真データの扱いや校務に関わるシステムの変更により滞りがあった。 	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		<p>雪害での急行のお知らせなど速やかに行われてよかった。 出前授業を地域の人たちにも見てもらえるとよい。</p>				